

## 平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

### 1. 学校概要

学校名 岡崎市立竜南中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育  
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育  
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ( )

所在地 〒444-0806  
愛知県岡崎市緑丘2丁目17番地

E-mail [ryunan@st.oklab.jp](mailto:ryunan@st.oklab.jp)

Website <http://www.oklab.ed.jp/weblog/ryunan/>

児童生徒数 男子 283名 女子 269名 合計 552名  
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☒ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

月	学習項目 (対象)	学習内容
4	○避難訓練 (全校)	・「おはしも」の合言葉を胸に、学校において自らのいのちを守る訓練を行う。
5	○防災オリエンテーション (3年生、2年生)	・自分の大切なものを実感し、それを守るために必要な防災の知識を知る。 ・岡崎を襲うと言われている「南海トラフ巨大地震」について知る。 ・「釜石の奇跡」から災害時の中学生の行動について考える。 ・大地震が起きた場合、何ができるのかシミュレーションをする。
6	○よりなん防災フェア (有志)	・南部地域交流センターよりなんでの防災フェアに参加する。 ・地域の方々の防災への意識や中学生に期待していることを知る。
7	○防災講話 (3年生)	・岡崎市の職員の方を招き、「南海トラフ巨大地震」に備えるには何が必要かを聞く。 ① 「南海トラフ巨大地震」について知ろう。 ② 自分の命を守るために準備しておくとは何か。 ③ 災害時に、中学生出来ることは何か。 ④ 40年前の竜南学区と比べよう。 ⑤ 避難所生活を送らないために必要なことは何か。
	○防災授業 (2年生)	・地震から身を守るために、何が必要なのかを知る。 ・防災だけではなく、減災という視点をもって考える。
8	○地域ボランティア参加 (有志)	・地域ボランティアに協力し、地域の一員としての意識を醸成する。 ・地域の人とともに活動に参加することで、地域愛を育む。 高年者センター夏祭り、老人介護施設交流、地域環状線清掃活動 学区小学校夏祭り、地域防災訓練
	○東北復興支援訪問 (有志)	・東北地方を訪問し、復興の様子やそれに関わる人々の思いを知る。 ① 亘理町のトマト農家にて、津波被災支援ボランティアを行う。 ② 荒浜中学校を視察し、防災の重要性を実感する。 ③ 閑上地区の震災語り部さんの話から震災時の状況や復興の様子を知る。
9	○避難訓練 (全校)	・避難袋を体験し、安全に避難する方法を探る。
	○防災マップ作り (3年生)	・地域の防災マップを作成し、震災時の被害状況を「見える化」する。 ・避難所の確認をする。 ・自分たちの住む地域のことを知り、防災対策を考える。
	○DIG (災害図上訓練) (3年生)	・防災マップを基に、災害時にどのように避難するのか考える。 ・自分の街の安全性・危険性を探る。
10 11	○「中学生にできること」追究活動 (3年生)	・一教員一チャレンジによる、学びの系統性・多様性 ①地域防災見守り隊 ②地域安心マップづくり ③サバ飯 ④100円ショップ非常持ち出し袋 ⑤救命救急講習資格取得への道 ⑥防災手ぬぐい(安否札兼学びまとめ) ⑦防災安心カレンダー ⑧避難所設営訓練 (予定) ※昨年の学びを参考にしながら、今年独自の学びへとしていく。
12	○よりなん防災フェア参加 (3年生有志)	・南部地域交流センターよりなんで行われる防災フェアで自分たちの学びを出展する。 ・地域との共有化を図る。
	○文化祭での発表活動 (3年生有志)	・東北復興支援ボランティアでの学びを参加者に発表する。 ・金ヶ瀬中学校との共同制作から、防災の絆を再確認する。(予定)
1	○学習のまとめ (3年生)	・いのちを守るための防災について学んだことをまとめる。
2	○防災フェスタ (全校)	・1年間の防災学習の成果を発表する発表会を開き、学習の成果を伝える。(3年生) ・発表会から、防災において必要なこと、中学生にできることなどを学ぶ。(1、2年生)

## (1) 学年防災オリエンテーション(2年生)

導入の段階で、「あなたの大切なもの」を考えた。お金、家族、命、友達などについて自分にとって何が一番大切なものなのか順位を付けるようにした。次にそれを発表することで学年全体での共有化を図った。それが右の写真である。こうすることで、大切なものは人それぞれによって違うが、どれも身近(学区や地域)なものであるということに気付くことができた。そうすることで右の教師と生徒との対話にあるように、学区を守りたいという気持ちを抱くことができる。この気持ちを確認したうえで、まず、南海トラフ巨大地震についての説明を行った。ここでは、正しい震源域やマグニチュードのこと、また岡崎市で予想される震度などを知った。次に、「釜石の奇跡」についての話をした。

T1:人それぞれで大切なものは当然違うよね。だけどそれらはどこにありますか。  
S1:家族やお金は家にあります。  
S2:友達は学校にいます。  
T2:そうだよね。それらは遠い場所ですか。  
S3:近くにいます。  
T3:そうです。みんなの大切なものはこの竜南学区にたくさんあるのです。だけど、いずれ南海トラフ巨大地震という大きな地震が起こると言われています。どう思いますか。  
S4:いやだ。  
S5:守りたいと思う。

このことは、中学生が防災学習で学んだ知識があったからこそ、たくさんの人が助かったと思えたし、小学生は中学生が判断して「高い所へ」という行動を見て、動いていたのでもし私たちがそんな状況になってしまったら、自分たちです早く行動をし、1人でも多くの命を助けていきたいと、思います。この出来事を知って、防災学習は大切だということが分かった。

ここでは、中学生の動きを伝えるために段階をおって話を進めていった。①釜石市の場所。②大地震の際には津波被害が想定されていて、それに応じた避難訓練を行っていたこと。③想定以上に津波が襲ってきたこと。④中学生の逃げる様子を見て小学生が避難すると決めたこと。⑤避難訓練の際に避難している場所では「危ない」と判断し、小学生を連れてさらに高いところに避難したこと。⑥結果的に99.8%もの生存率であったこと。⑦「釜石の奇跡」と言われていることは、当の本人たちからすれば奇跡ではなく「実績」であると考えていること。

このことから、右の生徒の感想では、「知識があったからこそ」ということに気付き、災害時には「自分たちです早く行動し、1人でも多くの命をたすけていきたい」という考えをもつことができた。だからこそ「防災学習は大切」だということに気付くことができた。

## (2) よりなん防災フェア

南部地域交流センターよりなんで防災フェアが行われることを知り、生徒に呼びかけた。テスト週間であったものの、18人の生徒が参加することができた。あらかじめ、どのようなことが行われるのか打ち合わせをしていたため、それに合わせてワー

クシートを作成し、生徒に配付していた。後日感想を見てみると右のように書いてあった。この生徒は今回の防災フェアで、「他

○よりなん防災フェアを見て、今後の防災学習に生かしたいことは何だろうか?

この防災フェアで体験したことをきっかけに、他にはどうするかで自分も調べてみたい。授業も真剣に受けて、防災への意識を高めた。また、今日の防災フェアに来ていない人たちに、どんなこと、体験があったのか、やったのかを教えて、みんなで防災についての意識を高めたい。

にはどうするかを自分で調べてみたり、授業を真剣に受けて防災への意識を高めたい。また、今日の防災フェアに来ていない人たちに、どんなこと、体験があったのか、やったのかを教えて、みんなで防災についての意識を高めたい。」

と書いている。

### (3) 防災学習（2年生）

DVDを使って、「災害とは何か」、「地震から身を守るにはどうすることが大切なのか」を知った。DVDの中で「災害」とは人に害を与える自然現象のことであると知った。次に、大地震が起きた場合に教室がどのようなになるのか予想した。右のように対話をする中で、減災という視点があるということに気付かせ、身近なことから取り組めるように意識付けを行うことができた。

T1:今、地震が起きた場合、2年1組の教室がどうなるか予想してみよう。

S1:ロッカーの上の水筒が飛んでくる。

S2:黒板の上の級訓や額縁が落ちてくる。

S3:扇風機が落ちてくる。

S4:掃除道具箱が倒れてくる。

S5:掃除道具箱の上にある、水槽が落ちてくる。

T2:多くの災いが予想されましたが、これらは防ぐことができないことですか。

S6:防ぐことができる。水筒は下に置く場所を作ればいいです。

T3:そうですね。地震や津波は私たちには防ぎようのないものですが、今みんなが予想した災害は、どれも減らすことができるものです。これを減災と言います。

### (4) 防災講話（3年生）

市役所防災危機管理課から職員の方を招き、「南海トラフ巨大地震に備えよう」と

最初の「南海トラフ巨大地震」についてお話していただいた。こんな広い範囲に被害が及ぶんだと、すごくおどろいた。物資も届かない状況になるから怖いなと思いました。直下型よりも海溝型の方が怖いなと思ったので、今まで以上に持ち出し袋を準備しなければいけないなと思いました。でも「自分」はすごく重たいと思うのでこれから考えていきます。私の家は小学校が割と近くにあって、少し安心していたけど、人数が多いんだし、小学校の備品だけにたよれないなと思いました。地震がおきたときにどこに避難するか、家族全員で話したことがないので話さなくてはいけないなと思いました。

題し講話をしていただいた。講話では、「南海トラフ巨大地震について」、「自分の命を守るために準備しておくことよいもの」、「災害時に中学生にできること」、「40年前の学区と比べて分かること」、「避難所生活を送らないようにするために必要なこと」などを話していただいた。生徒の感想を見ると、「今まで以上に持ち出し袋を準備しないとイケないなと思いました。」、「小学校の備品だけにたよれないな」、「家族全員で話したことがないので話さなくてはいけないな」というものが見られた。ここから、防災についての現状を把握することができ、家族との共有化を図ろうという意欲がもてたことがわかる。

### (5) 地域ボランティア（環状線道路清掃活動、老人介護施設交流、緑丘小夏祭り）

8月2日に環状線道路清掃活動が行われた。それぞれの地域で20人ほどの参加が見られ、意欲的に清掃活動に取り組む様子が見られた。8月5、6日には老人介護施設交流が行われた。そこでは、一日約20人ほどの生徒が参加し、施設利用者の方たちとゲームをしたりお話をしたりした。最後には、みんなでカラオケ大会を行った。8月8、9日には、緑丘小学校の夏祭りに参加し、出店の販売のお手伝いをしたり、盆踊りに参加したりして夏祭りを盛り上げていた。お店のものを買ってもらうように、呼びかけている生徒がおり、積極的に参加する様子が見られた。



### (6) 東北復興支援訪問オリエンテーション

夏休みに東北復興支援訪問をする生徒たちを集めて、オリエンテーションを行った。その中で、防災に必要なことや釜石東中学校の生徒の動きについて、東北復興支援訪問で学べることにについて話をした。特に「釜石の奇跡」では、中学生が小学生や地域の人を導いて避難したという話をした。そうしたところ、最後の感想の中で「中学生にできることがあると知った。」ということが聞かれた。この言葉から、生徒自身が「自分にできることがある」ということに気付けていないことがわかった。

#### (7) 東北復興支援訪問

##### 国見 S A

6時30分、起床。その後50分間を洗顔、着替え、朝ごはんの時間にあてた。その後、7時20分から40分間、この体験に向けて行ってきた一人調べ（宮城県、仙台市、亶理町、荒浜中学校、マイファーム亶理、閑上地区など）の成果を班ごとに発表し合った。生徒の中には自ら資料を用意して、提示しているものもあった。普段とは違った慣れない環境の中でも、積極的に話し合いに参加している生徒の姿があった。

##### 【生徒の感想】

○マイファーム亶理・・・亶理町は岡崎と比べても規模の小さい町だが、とても栄えていたことがわかった。海に近く特に被害の大きい町であるが、この4年でどれだけ復興されたのか、どう変化したのか見てみたいと思う。

○荒浜中学校・・・ボロボロになってしまった自分たちが勉強していた校舎を見て先生方や当時の生徒さんは何を思ったのか、また今通っている方は何を思って新しい校舎に通っているのか知りたい。

→一人調べをすることで、この体験の中で学ぶべき点について自分なりの視点を持つことができた。



##### ○ 荒浜中学校

- 1 交流、ベルマーク寄贈
- 2 校舎見学

到着して、図書室に入れていただいた。そこでは校長先生による歓迎のお言葉をいただき、当時の様子や新校舎ができるまでなどを話していただいた。その後、体育館へ行き生徒との交流を行った。お互いに挨拶をした後、荒浜中学校の代表生徒による「荒中えんころ」を披露していただいた。その後ベルマークの寄贈を



行い、最後に１０程度、会話を楽しむ時間を設けた。

図書室に戻り、教務の先生の案内に続いて校舎の見学を行った。屋上では、地域を見渡すことができ、現在の様子から当時の様子を話していただいた。また、屋上には外に通じる階段があって、それは地域の人々が津波から避難するためであると知った。校舎自体も高床式になっており、津波対策のもと建てられた校舎であり、教室は全て２階以上であった。ヘリポートもあり、生徒にとっては驚きの連続であった。

#### 【生徒の感想】

○校舎は生徒を守るだけでなく、地域の人も守れる構造になっていてびっくりした。

○荒浜中学校では実際に行ってみないとわからないことがたくさんあり、安心して過ごせる場所になっているんだなと思いました。もっと、宮城県の震災時の様子などを調べたいなと思いました。

○学校に足りなかったものを新校舎につけ、次に災害が起こった時のための対応策があることを、今後竜南中学校でも何か対策を練っていきたいと思った。

○荒浜中の人は避難訓練をしていたから、避難できたと言っていて、避難訓練は大切だなと思った。これからの避難訓練をしっかりとやっていききたいと思った。  
→津波対策のもと建てられた荒浜中学校の校舎の工夫に気付くことができた。そこから自分たちの地域に適した防災を考えていききたいと思うことができた。



#### ○ マイファーム亘理

- 1 市川様（岡崎市からの派遣された職員）のお話
- 2 高野さんのお話
- 3 収穫活動

マイファーム亘理にて、岡崎市市役所から派遣された市川様の話を聞いた。亘理町の概要や被災したときの状況、仮設住宅の入居状況など、当時の様子から現状に至るまで丁寧に話してくださった。質問する時間も取っていただき、「なぜ岡崎から派遣することになったのか」という質問に対して、「当時、岡崎市の消防が一番早く支援に行った。その後、職員の派遣についてどこから派遣してほしいのかという中で、どうせ派遣してもらうなら岡崎が良いということで岡崎からの派遣が決まった。」という回答をいただいた。

次に、マイファーム亘理で働く高野さんの話を聞いた。亘理町のいちごのことや、農業のこと、当時の被害状況などについて話をしていただいた。その後、ト

マトの収穫のお手伝いをした。今年は、例年の体験時と比べると多くのトマトを収穫することができた（27箱）。天候にも恵まれ、活動しやすい環境であったため、生徒は意欲的に取り組んでいた。中には、収穫したトマトを味わっている生徒もいた。

#### 【生徒の感想】

○東北の役に立ちたいと思い来た人たちのことを見習いたい。

○人の力強い思いとか情熱というものは、僕たちの心に強く印象に残り、響いている。僕もこの人たちのようになりたいです。

○ボランティア精神について話していたので、道具や物ももちろん大事けれども、災害があった時に自分から行動していくこと。

→自ら志願して派遣されてきた職員の方々の話を聞いて、ボランティアする気持ちの面について考えることができた。実際にトマトを収穫することで、農家の方々の思いの強さに気付くことができた。



#### ○堤防沿いの見学

マイファーム亘理からホテルに行くまでに堤防沿いに寄り、5分間ほど見学をした。当時は台風の影響？もあり、いつもより波が高かった。生徒の中にはその波の様子から、津波だとどうなるのかと考えている生徒もいた。

#### 【生徒の感想】

○海を中心にブロックを積んでいた。波を大きくしないため。

○浅瀬にも石垣が積んであった。

○そこで見た波はほとんどが高波で、津波だったらどれくらい高いだろうと思いました。

○完全に止めるためでなく、弱めるためにあると知った。





## ○閑上震災を伝える会

### 1 菊地訓子さん（語り部）のお話

- ・日和山にて
- ・慰霊碑にて
- ・貞山運河（貞山堀）
- ・閑上中学校にて
- ・歩道橋

当日は雨が降っていたため、バスの中で話を聞いた。その時に、当時の様子を写したDVDを鑑賞した。地震発生直後の様子や津波が町や人を襲う様子、変わり果ててしまった町の姿を見た。その後日和山に登り、松についた傷の話を聞いた。そして慰霊碑の前に行き、被災者の冥福を祈った。そして、場所を閑上中学校に移した。閑上中学校は1階部分が津波に襲われ、廃校が決まっているため、当時のままになっている。校舎についている時計は、地震があった時刻を指している。中学校では、まず当時の2年2組の教室で話を聞いた。菊地さんの息子さんが当時2年2組だったそうで、事細かに当時の状況を話してくださった。閑上中学校では14名の命が奪われ、菊地さんの息子さんの一番仲が良かった友達も亡くなっており、自分たちと同年代の生徒たちがどのような思い出今まで過ごしてきたのかを聞いた。生徒の中には話を聞きながら涙を流しているものもいた。その後、3階に行き町全体を見渡しながら話を聞いた。普段の語り部活動では3階まで来ることはないそうだが、今回は特別にということで話をしてくださった。この時に、菊地さんは「3階からの景色を見たくない。今までの景色とは違うから胸が苦しくなる。」と言っていた。次に閑上中学校の卒業生たちが作った灯笼を見ながら話を聞いた。その後、バスに乗り込み街中を走りながら話を聞いた。被災地の中で一番早く復興を決まった土地にもかかわらず、一番復興が遅れているらしく、道路わきには雑草が生い茂っていた。震災前の写真を見ながら話を聞いていた生徒たちは、全く違う状況に言葉をなくしていた。歩道橋近くでは、小学5年生の話を聞いた。最後にメープル館に行って、お礼を言った。

### 【生徒の感想】

○中学生が動くことで、大人が動いて避難することができるということを学びました。

○「窓の外を見ると泣いてしまうので」という言葉から地震や津波は建物や人の命を奪うだけでなく、心にも傷を与えていた。

○津波によって亡くなってしまった理由の一つに「大人が津波は閑上にこない」と安心しきっていたことが分かりました。どんな地震にも危機感をもたないといけないと思いました。

→津波被害の恐ろしさを実感するだけでなく、「中学生の役割の大きさ」を知ることができた。





- ( 8 ) 東北復興支援訪問報告会
- ( 9 ) 学区防災訓練
- ( 1 0 ) 2 年生学区散策
- ( 1 1 ) 防災フェスタ

( 2 ) 活動時間について ( 下記から選択して下さい。 )

- ☒ 通常の授業時間を使用 ( 総合的な学習の時間を含む )
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他 ( )